

Financial Report 2017

OSAKA CITY UNIVERSITY



平成29年度 財務報告書
公立大学法人 大阪市立大学

目次

・ 理事長 ごあいさつ	2
・ 公立大学法人における会計制度	3
・ 貸借対照表（概要）	5
・ 損益計算書（概要）	6
・ 貸借対照表（要約）	7
・ 損益計算書（要約）大学	8
・ 損益計算書（要約）病院	9
・ キャッシュ・フロー計算書（要約）、行政サービス実施コスト計算書（要約）	10
・ 固定資産について	11
・ 財務諸表について	12
・ 大阪市立大学の取組み	13
・ 大阪市立大学の概要	14
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み	15
Ⅰ 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献	
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み	16
Ⅱ 専門性の高い社会人の育成	
・ 第二期中期計画 重点三戦略の取組み	17
Ⅲ 国際力の強化	
・ 教育分野での取組み	18
・ 研究分野での取組み	19
・ 地域貢献分野での取組み	20
・ 医療分野での取組み	21

※ 財務諸表に関する数値については、端数処理の関係上、合計において一致しない場合があります。

※ P.15～P.21に記載している情報は、原則として公表時点のものを掲載しています。

（表紙のワシントンヤシについて）

本学のシンボルとして市大生、市大関係者のみならず、地域の方々にも長らく親しまれてきた杉本キャンパス 一号館前の庭（愛称：ワシントン広場）に植えられているヤシの木は昭和32～33年に植樹されたとみられています。約60年の年月を経ておよそ23mにまで成長し、樹木としての寿命に達していると考えられ、強風時に幹が折れたり、葉や葉柄（ようへい）などが落下する危険性が強まってきたことから、伐採することとなりました。表紙の写真は、左上から順に、植樹間もないころ、1968年、1987年、1999年、2017年（伐採前）、2017年（伐採後）のものです

理事長 ごあいさつ

大阪市立大学は、我が国最初の市立の大学で、平成27年に創立135年を迎えました。日本最大規模の公立大学で、大阪市内に位置する唯一の総合大学です。

前身の大阪商科大学の開学にあたって、当時の大阪市長 關一は、「都市・大阪を背景とした学問の創造」をめざす大学として「国立大学のコピー（コピー）であってはならぬ」と述べました。この言葉は現在も本学の建学の精神として脈々と引き継がれています。



昨年度、大阪市、大阪府において、2019年4月に法人統合を行うことをめざして2大学1高専を運営する公立大学法人大阪市立大学と公立大学法人大阪府立大学を新設合併する議案等がそれぞれの議会に提出され、大阪府議会、大阪府議会それぞれにおいて可決されました。今回の議決は、新設される法人において、大阪市立大学と大阪府立大学の両大学を運営していくというものであり、新大学設置への1ステップであると考えています。

これまで統合の議論をきっかけに両大学で様々な教育プログラム等の連携を進めてきております。今後も教職員や在学生のみならず、卒業生など多くのステークホルダーのご意見も参考にしつつ、これまで培ってきた両大学の伝統を大切にしながら、魅力ある新大学の実現につなげてまいります。

この財務報告書は、平成29年度決算を踏まえ、本学の状況を主に財務面を通してご理解いただきますことを目的として作成しました。本法人を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、引き続き温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公立大学法人大阪市立大学 理事長 荒川哲男

公立大学法人における会計制度

公立大学法人の会計基準とは、どのようなものですか？

公立大学法人は、「地方独立行政法人法」および「地方独立行政法人会計基準」に基づき、毎事業年度ごとに、貸借対照表、損益計算書などの財務諸表を複式簿記、発生主義により作成しております。

貸借対照表とは

貸借対照表は、期末時点（3月31日）における財政状態を明らかにするための書類です。大阪市立大学の持つすべての資産、負債および純資産を記載しています。

P.7貸借対照表

損益計算書とは

損益計算書は、一会計期間（4月1日から3月31日）に属するすべての費用と収益を記載した書類です。公立大学法人は、企業会計のように経営成績を示すためではなく、利益の獲得を目的とせず「損益均衡の原理」を基本としており、運営状況を明らかにすることを目的としています。

P.8 P.9損益計算書

キャッシュ・フロー計算書とは

キャッシュ・フロー計算書とは、一会計期間における、資金収支の状況を活動区分別に表示して、大阪市立大学の活動内容を資金の流れから表したもので、業務活動、投資活動、財務活動の3つに区分しています。

P.10キャッシュ・フロー計算書

行政サービス実施コスト計算書とは

行政サービス実施コスト計算書とは、皆さまに負担いただいていますコストを表した書類です。損益計算書に計上されない減価償却相当額や引当外退職給付見積額、大阪市の財産や出資などを使用することから生じる機会費用等を含めて表示しています。

P.10行政サービス実施コスト計算書

貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、行政サービス実施コスト計算書の関係をP.12に示しています。

公立大学法人会計の特色について説明します。

地方独立行政法人会計基準は企業会計に準じていますが、公立大学法人は公共的な性格を有し、主たる事業が教育研究であることを踏まえ、利益の獲得を目的としないため、企業会計にはない以下のような特有の処理を行っております。

損益均衡

公立大学法人の主たる事業は教育研究であり、利益の獲得を目的としないため、計画通り業務を行えば、損益が均衡するように、固定資産を取得した際には、同額を将来支払うべき費用（減価償却費）の準備として負債科目（資産見返負債）に積み立て、耐用年数に応じ、毎年、減価償却費に見合うよう、それと同金額取崩し収益（資産見返負債戻入）とすることで、損益に影響を及ぼさないように処理しています。

損益外減価償却

法人設立時に出資された固定資産等の減価償却は、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されるものではなく、その資産価値の減少は、公立大学法人の運営責任の範囲外にあると考え、損益上の費用ではなく、資本の減少と考えて資本剰余金から減額します。

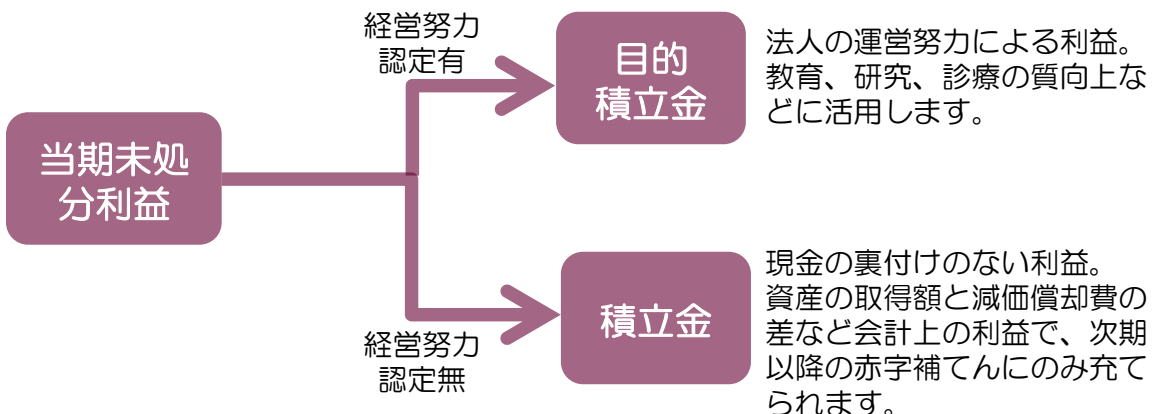
この資産価値の減少である「損益外減価償却累計額」として、355億円計上しており、これに対する施設整備費は、設立団体から予算措置されることが前提のため法人として引当金の計上は会計上難しく、施設整備費補助金の予算措置は設立団体の財政状況に大きく左右されるため、目的積立金を施設整備に充てる必要があります。

引当外退職給付見積額

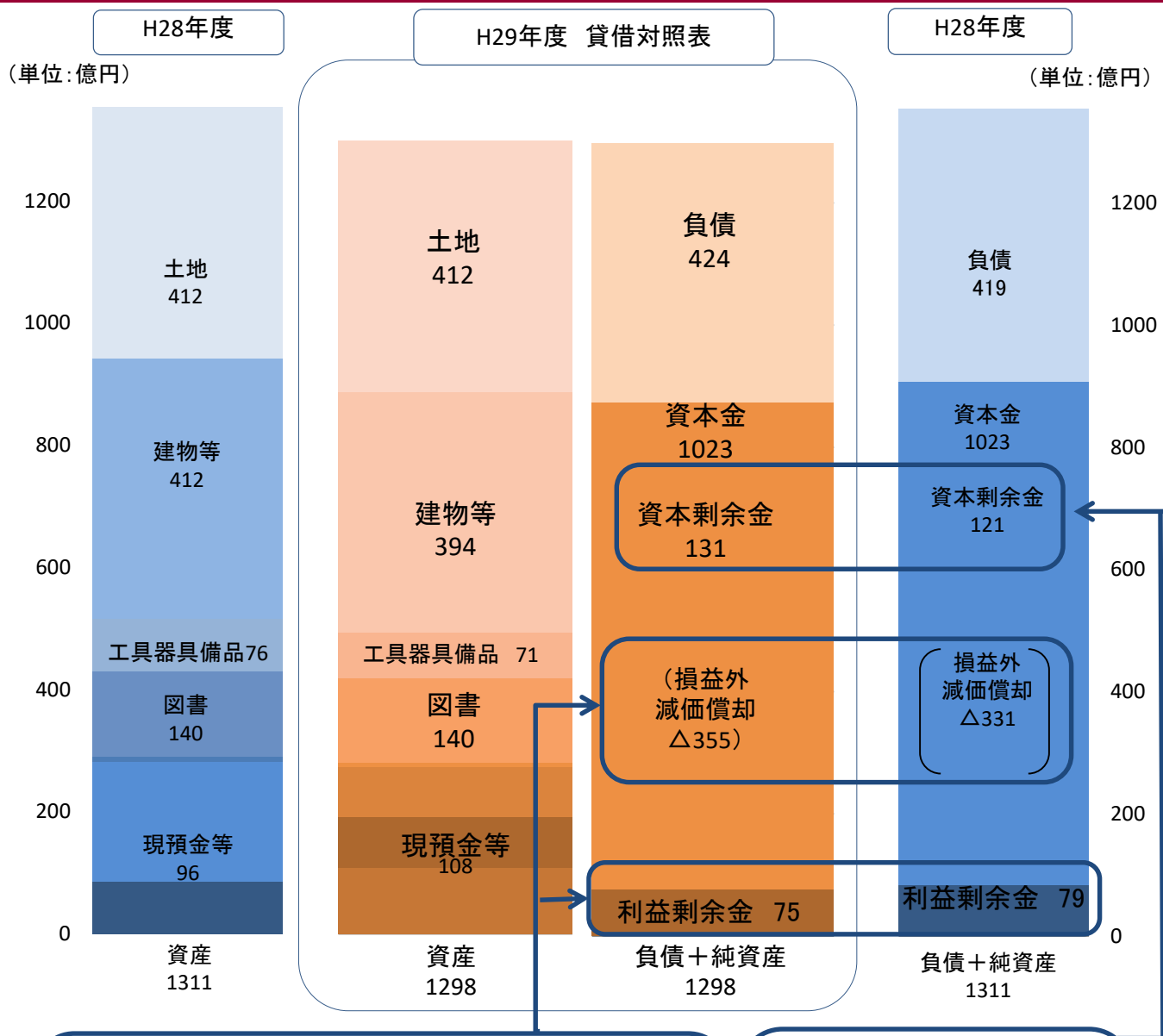
公立大学法人は設立団体から退職給付の財源が予算措置されることが明らかに見込まれる場合は、企業会計で行っている引当金を計上しないこととされております。この場合、引当外となった退職給付及び賞与については、「引当外退職給付見積額」として貸借対照表の注記において表示することとされております。

本学においては、大阪市からの財源措置が明らかに見込まれておりますので、引当金を計上せず、「引当外退職給付見積額」として、129億円（大阪市からの派遣職員分23億円を含む）を表示しております。

公立大学法人における利益



貸借対照表（概要）



利益剰余金 75億円（H28 79億円）

現金の裏付けあり（法人の経営努力による利益） 39億円

特定償却資産の施設整備や教育、研究、診療の質向上などに充てられる

	大学	病院
目的積立金(残高)	6億円	26億円
＋当期利益	6億円	1億円

現金の裏付けなし（会計上のみの利益） 36億円

次期以降の会計上の損失があった場合の相殺にのみ充てられる

	大学	病院
積立金(残高)	1億円	35億円
＋当期利益	0億円	0億円

資本剰余金 131億円

大阪市からの施設整備費補助金に加え目的積立金を活用し、遅れている施設の整備、改修を実施。
固定資産 資本剰余金 ＋10億円

（主な資産）

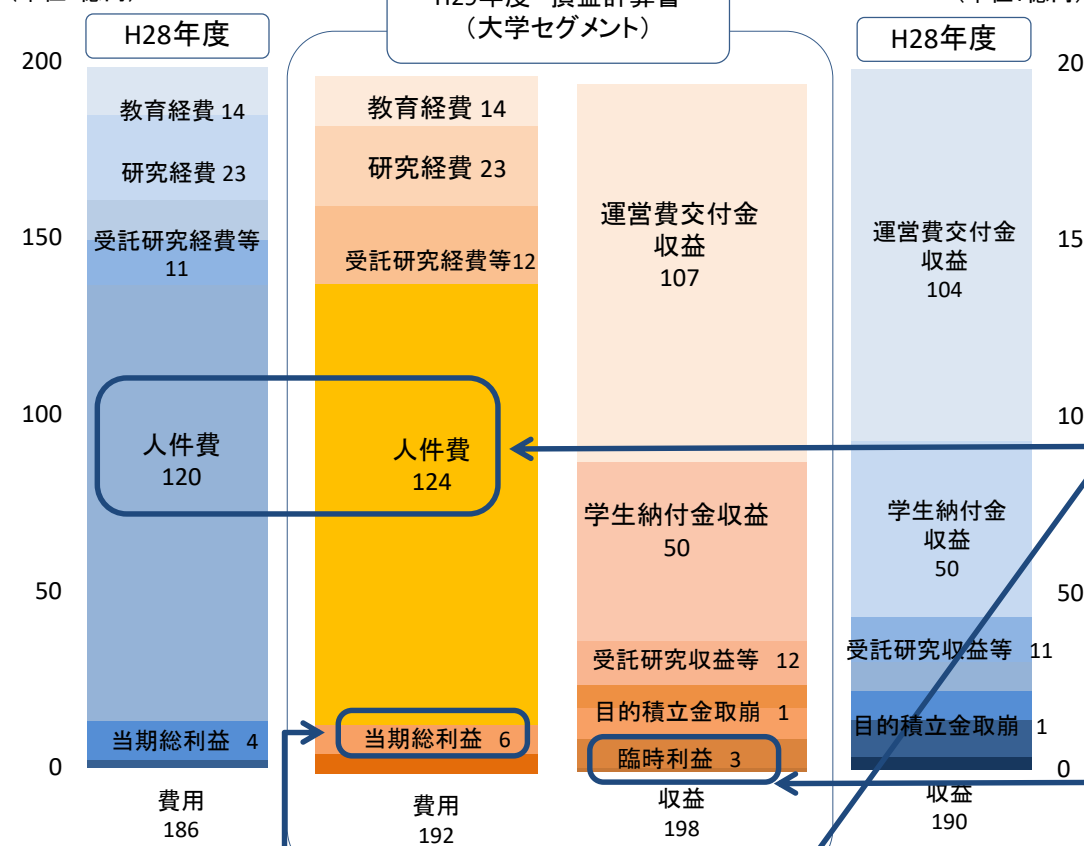
附属病院空調機改修	1.9億円
電子顕微鏡購入	1.1億円
学務情報システム更新	1.2億円

損益外減価償却 △355億円（H28 △331億円）

特定償却資産の減価償却費は、損益外減価償却費に計上される。これに対する施設整備費は、設立団体から予算措置されることが前提のため、法人として引当金を積立てることが難しいが、予算措置は、設立団体の財政状況に左右される。この為、利益剰余金を充当する事が想定される。

損益計算書（概要）

(単位:億円)



人件費の増 9億円

- ・大学セグメント
 - 給与等 4億円
 - 退職手当 2億円
- ・病院セグメント
 - 給与等 5億円
 - 退職手当 3億円
 - 退職手当 2億円

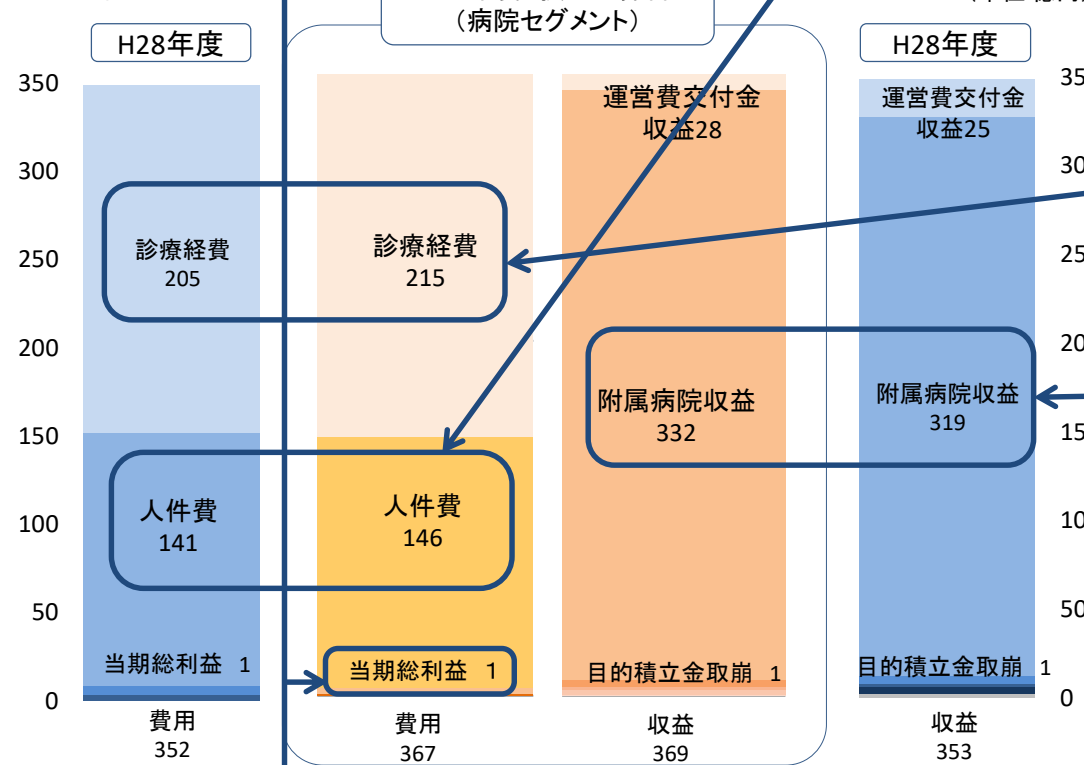
〈主な要因〉

- ・給与改定による増
- ・退職者の増に伴う退職手当の増
- ・人員増による増

臨時利益の増 3億円

- ・第二期中期計画最終年度による運営費交付金債務の収益化

(単位:億円)



診療経費の増 10億円

- ・医薬品費の増
- ・診療材料費の増
- ・委託費の増

附属病院収益の増 13億円

- 本院 +12億円
 - ・入院収益 +3億円
 - ・外来収益 +9億円
- MedCity21 +1億円

当期総利益
(H28

7億円
5億円)

大学セグメント
病院セグメント

6億円(H28 4億円)
1億円(H28 1億円)

貸借対照表（要約）

（億円）

資産の部	H28年度	H29年度	前年度比	
	1,311	1,298	△13	99%
固定資産	1,134	1,107	△27	98%
有形固定資産	1,042	1,019	△23	98%
土地	412	412	0	100%
建物・構築物・機械装置	411	394	△17	96%
工具器具備品	76	71	△5	93%
図書	140	140	0	100%
その他	3	2	△1	67%
無形固定資産	7	7	0	100%
ソフトウェア	6	6	0	100%
その他	1	1	0	100%
投資その他の資産	85	82	△3	96%
投資有価証券	6	6	0	100%
未収財源措置予定額	65	60	△5	92%
長期性預金	10	12	2	120%
金銭信託	4	4	0	100%
その他	0	1	1	0%
流動資産	177	191	14	108%
現金および預金	96	108	12	113%
未収附属病院収入	61	69	8	113%
その他未収入金	11	10	△1	88%
有価証券	4	0	△4	0%
その他	5	5	0	100%

負債の部	H28年度	H29年度	前年度比	
	419	424	5	101%
固定負債	296	296	0	100%
資産見返負債	170	169	△1	99%
長期寄附金債務	33	33	0	100%
長期借入金	18	30	12	167%
長期未払金	62	57	△5	92%
長期リース債務	11	6	△5	55%
資産除去債務	2	2	0	100%
流動負債	123	128	5	104%
運営費交付金債務	2	0	△2	0%
寄附金債務	20	21	1	105%
前受受託研究費等	2	2	0	100%
前受受託事業費等	8	9	1	113%
一年以内返済予定長期借入金	8	9	1	113%
未払金	70	75	5	107%
リース債務	7	7	0	100%
預り科学研究費補助金等	3	3	0	100%
預り金	2	2	0	100%
その他	1	0	△1	0%

純資産の部	H28年度	H29年度	前年度比	
	892	874	△18	98%
資本金	1,023	1,023	0	100%
資本剰余金	△210	△225	△15	107%
資本剰余金	121	131	10	108%
損益外減価償却累計額	△331	△355	△24	107%
その他	0	0	0	0%
利益剰余金	79	75	△4	95%
前中期目標期間繰越積立金	27	27	0	100%
目的積立金	38	32	△6	84%
積立金	10	10	0	90%
当期末処分利益	5	7	2	140%

病院空調更新 +1.9億円
減価償却 △24.8億円

阿倍野キャンパスLAN機器等 +2.3億円
クライオ透過型電子顕微鏡 +1.1億円
X線CTシステム +3.6億円
減価償却 △26.1億円

学務情報システム +1.4億円
減価償却 △2.2億円

「資産見返負債」
運営費交付金、授業料、補助金、
寄附金等を財源として資産購入
した場合は収入時に収益化せず
に一旦固定負債として計上し、減
価償却時に、資産見返戻入として
収益化する

病院による市からの借入金残高

病院空調更新 +1.9億円
クライオ透過型電子顕微鏡 +1.1億円
学務情報システム更新 +1.2億円

損益計算書（要約）大学

(億円)

総費用	H28年度	H29年度	前年度比
	185.6	191.9	6.3
経常費用	185.6	191.9	6.3
業務費	176.9	183.7	6.8
教育経費	13.4	14.1	0.7
研究経費	23.4	22.8	△0.6
教育研究支援経費	9.3	9.7	0.4
受託研究費等	10.6	12.4	1.8
人件費	120.2	124.7	4.5
一般管理費	7.7	7.1	△0.6
財務費用	0.9	1.0	0.1
雑損	0.1	0.1	0.0
臨時損失	0.0	0.0	0.0

受託研究費の増 1.3億円
・医学研究科における採択増
受託事業費の増 0.5億円
・医学研究科における受託事業増

人件費の増 4.5億円
・給与等 +2.6億円
 教員+0.6億円、職員 +2.0億円

・退職手当 1.9億円
 教員+1.7億円、職員 +0.6億円
 役員△0.4億円

総収益	H28年度	H29年度	前年度比
	189.5	197.8	8.3
経常収益	188.3	193.6	5.3
運営費交付金収益	103.8	107.0	3.2
学生納付金収益	50.1	50.5	0.4
受託研究等収益	10.7	12.5	1.8
補助金等収益	2.6	2.0	△0.6
施設費収益	1.0	1.2	0.2
寄附金等収益	9.0	8.8	△0.2
資産見返負債戻入	6.5	6.5	0.0
雑益	4.6	5.2	0.6
臨時利益	0.0	3.0	3.0
目的積立金取崩額	1.2	1.1	△0.1

運営費交付金収益の増 +3.2億円

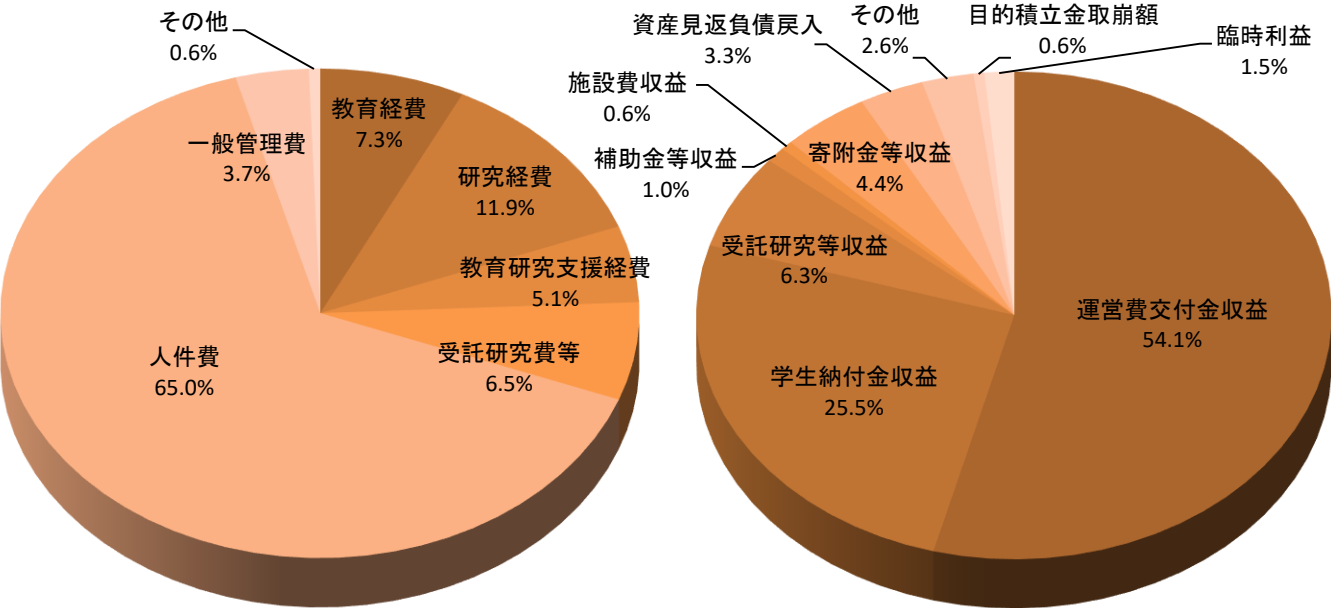
・退職手当の増 +2.0億円
・退職手当以外 +1.2億円

第二期中期計画最終年度による
運営費交付金債務の収益化

目的積立金を財源とした費用は、
経常、臨時であるが、見合いの収益は
経常、臨時ではなく、目的積立金取崩
として独立計上している

経常利益	2.7	1.7	△1.0
------	-----	-----	------

当期総利益	3.9	5.9	2.0
-------	-----	-----	-----



損益計算書（要約） 病院

(億円)

診療経費の増加 +9.7億円
・医薬品費 +6.0億円
・診療材料費 +1.6億円
・委託費 +2.8億円

人件費の増加 +4.9億円
・給与等 +3.3億円
(教員+0.7億円、職員 +2.6億円)
・退職手当 +1.6億円
(教員+0.3億円、職員 +1.3億円)

附属病院収益+13.0億円

○本院 +11.6億円
・入院収益 +3.0億円
入院患者数増
277,084人→278,329人
(+1,245人)
一人一日当たり診療単価増
78,461円→79,180円
(+719円)
・外来収益 +8.6億円
外来患者数増
477,979人→490,231人
(+12,252人)
一人当たり診療単価増
19,966円→21,269円
(+1,303円)

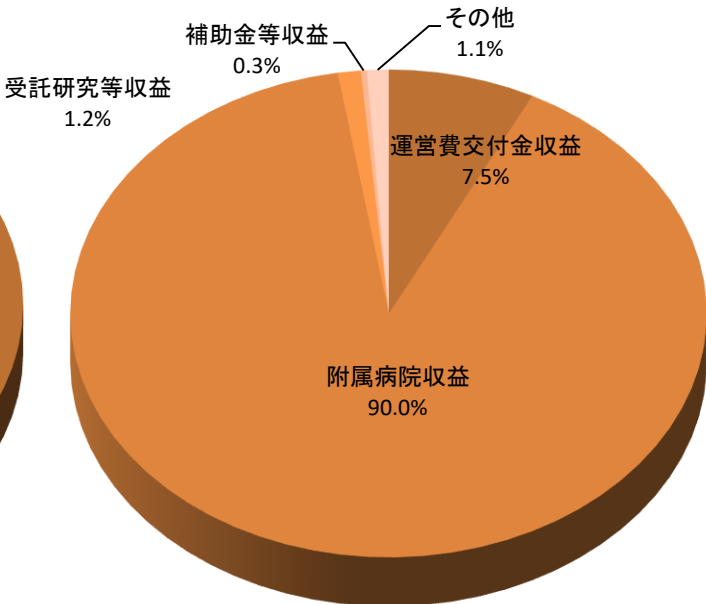
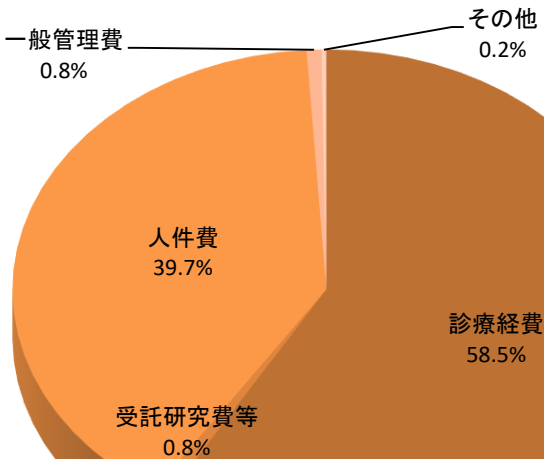
○MedCity21 +1.4億円
・健診受診者数増
11,605人→13,639人
・外来受診者数増
11,117人→12,098人

総費用	H28年度	H29年度	前年度比
	352.5	367.4	14.9
経常費用	352.5	367.4	14.9
業務費	349.2	364.0	14.8
教育経費	0.3	0.2	△0.1
研究経費	0.2	0.3	0.1
診療経費	205.0	214.7	9.7
受託研究費等	2.7	2.9	0.2
人件費	141.0	145.9	4.9
一般管理費	3.0	3.0	0.0
財務費用	0.3	0.4	0.1
雑損	0.0	0.0	0.0
臨時損失	0.0	0.0	0.0

総収益	H28年度	H29年度	前年度比
	353.4	368.9	15.5
経常収益	352.8	368.2	15.4
運営費交付金収益	24.8	27.5	2.7
附属病院収益	318.9	331.9	13.0
受託研究等収益	4.2	4.3	0.1
補助金等収益	1.2	1.1	△0.1
寄附金等収益	0.0	0.0	0.0
資産見返負債戻入	0.4	0.4	0.0
財務収益	0.0	0.0	0.0
雑益	3.3	3.0	△0.3
臨時利益	0.0	0.0	0.0
目的積立金取崩額	0.6	0.7	0.1

経常利益	0.3	0.8	0.5
------	-----	-----	-----

当期総利益	0.9	1.5	0.6
-------	-----	-----	-----



キャッシュ・フロー計算書（要約）

(億円)			
キャッシュ・フロー計算書	H28年度	H29年度	前年度比
業務活動によるCF	32.2	37.6	5.4
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 231.2	△ 238.6	△ 7.4
人件費支出	△ 271.6	△ 270.2	1.4
その他の業務支出	△ 9.9	△ 9.1	0.8
運営費交付金収入	126.8	135.9	9.1
学生納付金収入	51.5	51.2	△ 0.3
附属病院収入	326.6	324.3	△ 2.3
外部資金収入	31.1	30.4	△ 0.7
その他の業務収入など	8.9	13.6	4.7
投資活動によるCF	△ 12.2	△ 28.8	△ 16.6
有価証券の償還による収入	2.0	4.0	2.0
有形固定資産の取得による支出	△ 23.4	△ 26.7	△ 3.3
無形固定資産の取得による支出	△ 0.4	△ 2.1	△ 1.7
長期性預金の取得による支出	0.0	△ 2.0	△ 2.0
定期預金の預入による支出	△ 77.0	△ 82.0	△ 5.0
定期預金の払戻による収入	82.0	77.0	△ 5.0
施設費による収入	4.2	2.6	△ 1.6
利息及び配当金の受取額	0.4	0.3	△ 0.1
財務活動によるCF	△ 21.3	△ 2.0	19.3
資金増減額	△ 1.3	6.9	8.2
資金期首残高	67.3	66.0	△ 1.3
資金期末残高	66.0	72.8	6.8
現金及び預金	96.0	107.8	11.8
定期預金	30.0	35.0	5.0

「業務活動」

教育・研究・診療などの通常業務の実施に伴う資金の出入りを表している

「投資活動」

固定資産取得や売却、基金・余裕資金運用などの投資活動に伴う資金の出入りを表している

「財務活動」

借入金による資金の調達や返済などの財務活動に伴う資金の出入りを表している

貸借対照表流動資産の現金及び預金から定期預金分を引くと、72.8億円となり、資金期末残高と一致する

行政サービス実施コスト計算書（要約）

(億円)			
	H28年度	H29年度	前年度比
業務費用	134.7	140.3	5.6
損益計算書上の費用	538.0	559.1	21.1
業務費	526.1	547.7	21.6
一般管理費	10.7	9.9	△ 0.8
財務費用	1.1	1.4	0.3
雑損	0.1	0.1	0.0
自己収入等	△ 403.3	△ 418.8	△ 15.5
学生納付金収益	△ 50.1	△ 50.5	△ 0.4
附属病院収益	△ 318.9	△ 331.9	△ 13.0
受託研究等収益など	△ 14.9	△ 16.8	△ 1.9
寄附金収益	△ 9.0	△ 8.8	0.2
財務収益	0.0	0.0	0.0
雑益	△ 5.2	△ 5.5	△ 0.3
資産見返運営費交付金等戻入	△ 2.2	△ 2.3	△ 0.1
建設仮勘定見返運営費交付金等戻入	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.1
資産見返寄附金戻入	△ 2.8	△ 2.7	0.1
損益外減価償却相当額	23.9	24.6	0.7
損益外利息費用相当額	0.0	0.0	0.0
損益外除売却差額相当額	0.0	0.0	0.0
引当外賞与増加見積額	0.5	0.7	0.2
引当外退職給付増加見積額	4.6	0.0	△ 4.6
機会費用	0.9	0.6	△ 0.3
使用料等による機会費用	0.4	0.3	△ 0.1
大阪市出資等の機会費用	0.5	0.3	△ 0.2
行政サービス実施コスト	164.6	166.3	1.7

「市からの財源で賄われているコスト」

PLの費用から、学生納付金や診療収益等の自己収入を差し引いたもの

「損益計算書に計上されないコスト」

市から出資された資産等の減価償却や除却損失及び一部退職手当等の制度上費用に反映されない負担相当額

「免除もしくは軽減されているコスト」

市等の資産利用に関して、公立大学法人ゆえに優遇された相当額

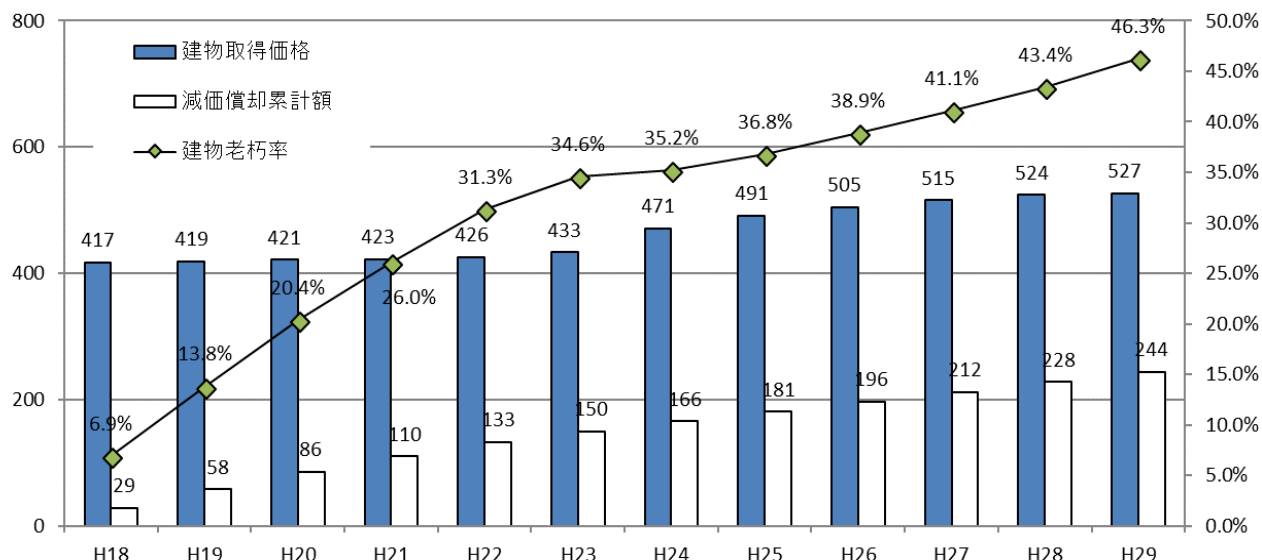
運営費交付金収益は138億であるが、市民の皆様には負担いただいているコストは166億円

固定資産について

建物の老朽化

建物の取得価格の増加に対して、減価償却累計額の増加が上回っていることから、建物老朽化率（建物取得価格に対する減価償却の割合）が上昇しています。このことは、施設の老朽化に整備が追いついていない状況を示しています。

（単位：億円）

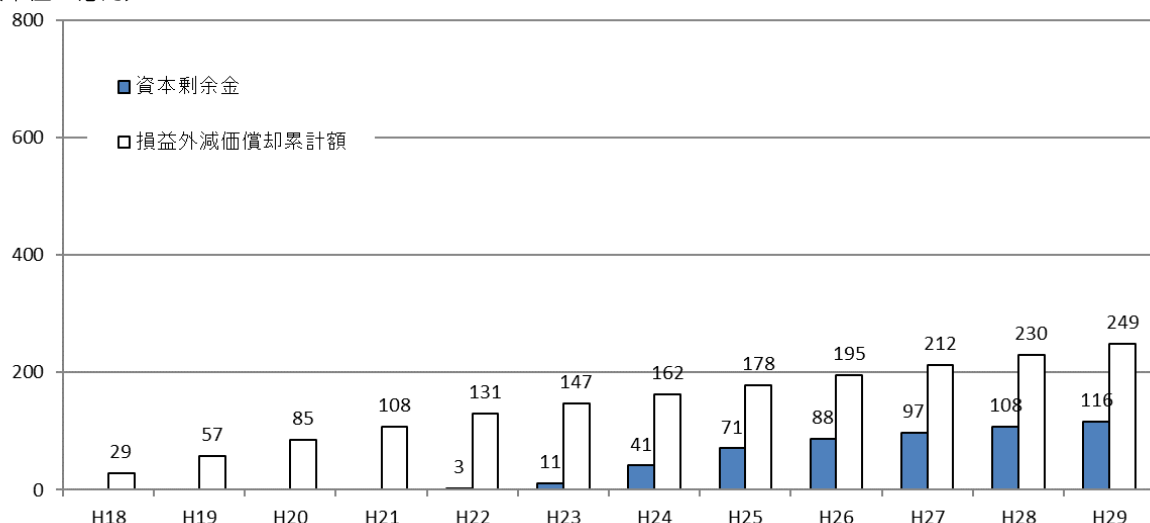


※大阪市から出資のあった建物の取得価格は、出資時の時価評価額を計上し、減価償却累計額は法人化以降分を計上しています。

特定償却資産の減少

特定償却資産は、出資された資産や施設整備費補助金及び目的積立金を財源として取得し、大阪市から特定償却資産と認められた資産で、資本剰余金（出資資産は資本金）となります。また、損益外減価償却累計額は、特定償却資産の減価償却した累計額を示しており、特定償却資産の増加が特定償却資産の減少に追いついていない状況となっています。

（単位：億円）

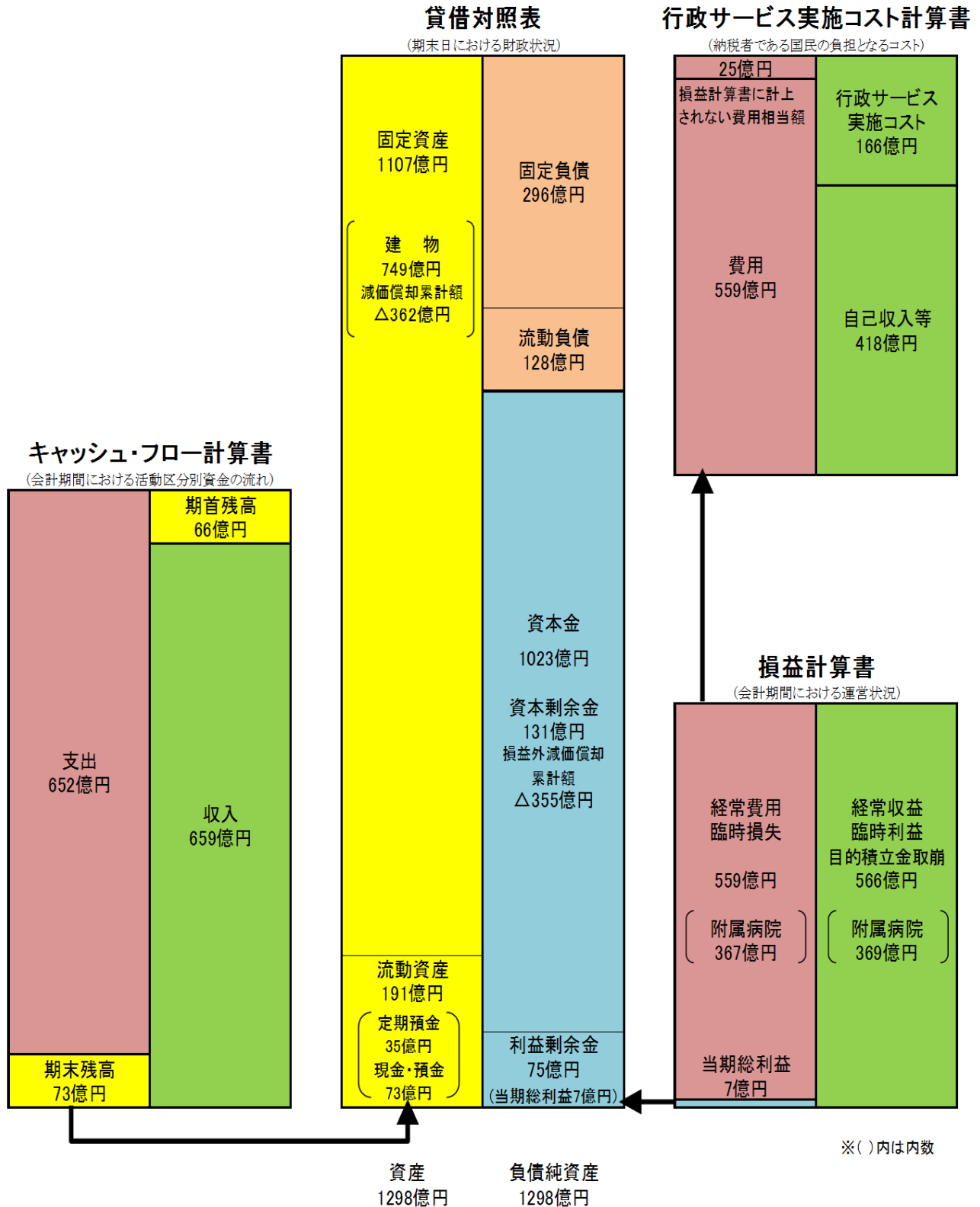


※病院セグメントでは、出資財産以外は、特定償却資産ではなく（目的積立金で取得した直接診療収益に影響が無い資産を除く）、民間企業と同様に損益外計上ではなく、減価償却費として費用計上しているため、上記グラフは大学分を示しています。

財務諸表について

公立大学法人は、「地方独立行政法人会計基準」及び「地方独立行政法人会計基準注解」にしたがって会計を行い、財政状態及び運営状況を明らかにするため、財務諸表を作成しています。

財務諸表の体系概要



大阪市立大学の取組み

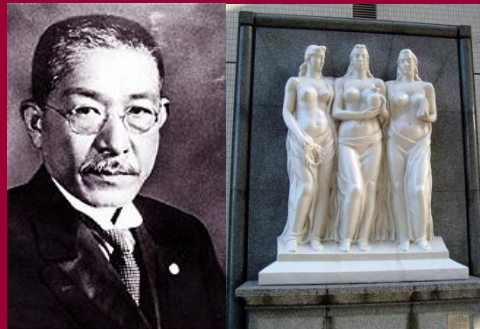
大阪市立大学は
皆様に支えられて活動を行っています。
これからも、皆様からのご支援に対する説明責任を果たしながら、

「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」

を開設以来 の理念として、

また、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき、

教育・研究・地域貢献・医療を目指します。



第7代大阪市長 關 一 智・仁・勇の三女神像

大阪市立大学の概要

主な沿革

1880年（明治13年）	大阪商業講習所	設立
1928年（昭和3年）	大阪商科大学	創立
1947年（昭和22年）	大阪市立医科大学	創立
1949年（昭和24年）	大阪市立大学	創立



市立大阪高等商業学校 明治45年頃

設置学部等	商学部/経営学研究科 経済学部/経済学研究科 法学部/法学研究科 文学部/文学研究科 理学部/理学研究科 工学部/工学研究科 医学部医学科/医学研究科 医学部看護学科/看護学研究科 生活科学部/生活科学研究科 創造都市研究科 医学部附属病院	学生数		8,211人
		教員数		719人
		職員数	杉本他	193人
			阿倍野	1,281人
		校地面積	杉本他	527,450㎡
			阿倍野	30,756㎡
キャンパス	杉本、阿倍野	施設面積	杉本他	197,614㎡
サテライト他	梅田 理学部附属植物園（交野市）		阿倍野	171,323㎡

平成29年5月1日現在

各種ランキング

「2018 THE World University Rankings」

国内順位	世界順位	大学名
1	46	東京大学
2	74	京都大学
3	201-250	大阪大学
		東北大学
5	251-300	東京工業大学
6	301-350	名古屋大学
7	351-400	九州大学
8	401-500	北海道大学
		東京医科歯科大学
		筑波大学
11	501-600	藤田保健衛生大学
		首都大学東京
13	601-800	会津大学
		千葉大学
		広島大学
		順天堂大学
		香川大学
		金沢大学
		慶應義塾大学
		神戸大学
		高知大学
		熊本大学
		名古屋市立大学
		岡山大学
		大阪市立大学
		東京農工大学
		東京理科大学
		早稲田大学
		横浜市立大学

「地域貢献度ランキング」

順位	大学名
1	大阪大学
2	信州大学
3	鹿児島大学
4	立命館大学
5	北九州市立大学
6	金沢大学
7	群馬大学
8	大阪市立大学
9	大阪府立大学
10	神戸大学
11	岩手大学
12	新潟大学
13	愛媛大学
14	兵庫県立大学
15	徳島大学
16	名古屋市立大学
17	近畿大学
18	島根大学
19	関西大学
20	横浜市立大学

平成29年11月6日発行『日経グローカル』327号 抜粋

第二期中期計画 重点三戦略の取組み

I 都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献

合同会社ウェルネスオープンリビングラボと健康寿命延伸に関する包括連携協定を締結

平成29年7月3日（月）に、ホテルニューオータニ大阪にて、合同会社ウェルネスオープンリビングラボ（以下、WOLL）と健康寿命延伸に関する包括連携協定を締結しました。

WOLLは、認知症などの健康科学関連の課題解決を目標に、目的に賛同する14社が出資し、新たな研究領域の開拓による製品やサービス等の提供、データの利活用による健康の増進と地域・産業の活性化、人材育成などさまざまな活動への寄与を目指しています。

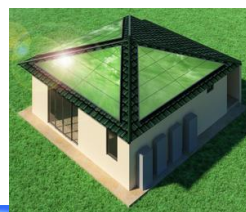
本協定に基づき、わが国が抱える健康課題に関する学術研究、先端技術の開発、実証および実用化に取り組むとともに、健康データの収集及び解析、人材育成を行い、健康の増進と地域・産業の活性化を図ってまいります。

宮古島に“人工光合成ハウス”を建設

大阪市立大学は、飯田グループホールディングス株式会社（以下飯田GHD）と共同で、従来にない人工光合成技術による「IGパーフェクトエコハウス」の実証実験を沖縄県宮古島で開始しました。

実験用「IGパーフェクトエコハウス」は、飯田GHDのグループ会社である株式会社飯田産業（本社 東京都武蔵野市、代表取締役社長 兼井雅史）が沖縄県宮古島市で建設中の大規模リゾート計画地内において建設中です。

この実証実験で、太陽光エネルギーから水素を作り出し、発電給湯を行う技術を確認し、2020年に「人工光合成技術による二酸化炭素消費型の新しい住宅」の完成を目指します。



堺市と地域防災に関する連携協定を締結

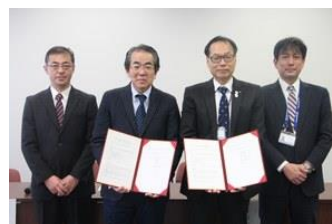


平成29年10月24日（火）、堺市役所において「堺市と大阪市立大学都市防災教育研究センターとの地域防災に関する連携協定」の協定締結式が行われました。

これまで都市防災教育研究センターと堺市は、堺市を対象とした公開講座、コミュニティ防災教室の実施や堺市の小学校区でのまち歩き訓練などで連携していましたが、今後も堺市の地域防災力向上に計画的かつ継続的に携わっていくため、このたびの協定締結に至りました。

大阪市港湾局と港湾防災等に関する連携協定を締結

平成29年11月27日（月）、大阪市港湾局と港湾防災等に関する連携協定を締結しました。「災害に強く安全で使いやすい港の実現」を目指し、近年の大規模化する災害や、今後の気候変動にも対応できる持続可能な港整備に対応すべく、連携を深めていきます。



第二期中期計画 重点三戦略の取組み

Ⅱ 専門性の高い社会人の育成

ふるさと寄附金により「南部陽一郎記念若手奨励賞」創設

平成29年11月27日(月)学術情報総合センター10階 大会議室において「ふるさと寄附金を財源とした『グローバル人材育成事業』南部陽一郎記念若手奨励賞表彰式」を開催しました。

南部陽一郎記念若手奨励賞は、優れた研究業績をあげた本学の若手研究者を表彰することを目的に、大阪市のふるさと寄附金を財源としてこのたび創設されました。賞の名称は、かつて本学旧理工学部において教鞭を執られた、本学名誉教授・特別栄誉教授であり、2008年ノーベル物理学賞受賞者の故南部陽一郎先生の業績を記念するとともに、若手研究者の育成・活躍を強く望まれていた南部先生にちなむものです。

第1回となる今回は、選考の結果5名の若手研究者に対し、荒川学長より表彰状とともに副賞の研究奨励費50万円の目録を授与しました。



「都市経営研究科」を開設

これまで主として社会人を対象としてきた創造都市研究科を基盤としつつ、都市経営に関わる分野を主な教育研究内容とする都市経営研究科を平成30(2018)年4月に開設することを決定し、文部科学省へ届出を行い受理されました。

都市経営研究は、都市を支える行政、プランナー、ビジネス、医療・福祉・市民公益活動等の主要なセクターに属する人々が、自らの現場で抱えている都市経営の諸課題を、経済・経営・政策・地域・法／行政などの視点から、都市のイノベーションとサステナビリティをふまえて解決できるように、指導的人材やプロフェッショナル／実務的研究者を養成する大学院です。



このために、都市経営の基礎となる都市・地域の政策／地域経済分析や、都市経営のための地方自治体の行政改革・ガバナンス、都市を活性化する中小ベンチャーの企業経営革新とICT化、医療・福祉の経営革新等の都市経営の諸課題について、「都市政策・地域経済」「都市行政」「都市ビジネス」「医療・福祉イノベーション経営」などのコースを設けています。

オープン・カフェ・バー・ラボ「ツクルマ」開設

多くの人が行き交う学術情報総合センター1階エントランスホールを整備し、「ツクルマ」が完成しました。

「総合大学としての強みを活かして学部・領域横断の人的交流と知的交流を生み出す空間」をコンセプトに教職員と学生の共同で制作された空間です。

8月5日(土)、6日(日)のオープンキャンパスでは、高校生や保護者に向けた「ツクルマ」オープニングイベントを開催し、荒川学長とデザインを担当した工学研究科・嘉名教授のあいさつのあと、工学研究科の学生制作者チームによるプレゼンテーションが行われました。



第二期中期計画 重点三戦略の取組み

Ⅲ 国際力の強化

台湾・実践大学を訪問し、国際学術交流協定を締結



平成30年2月27日、荒川学長ほか大学関係者一行が、実践大学を表敬訪問しました。実践大学陳振貴学長および関係者との懇談を行い、学術交流協定の調印式を実施しました。今後、両大学間の学術交流を推進していくことを確認しました。調印式終了後は、実践大学の学生アンバサダーによるキャンパス見学も行いました。

学術交流促進に向け、中国の大学を表敬訪問

平成30年3月16日、上海・華東政法大学表敬訪問

王晨法学研究科教授、原田裕彦法学研究科教授が国際交流アドバイザー張進氏に同行いただき、華東政法大学を表敬訪問し、学生交流を中心に、両大学の交流について積極的な意見交換を行いました。

平成30年3月20日、成都・四川外語大学成都学院表敬訪問

小田中章浩学長特別補佐兼国際センター所長、久保彰宏国際センター副所長は、四川外語大学成都学院へ表敬訪問を行いました。四川外語大学成都学院は日本語学科を有しており、現地学生の短期・長期の学生派遣や、本学学生の四川外語大学成都学院の英語学科への受け入れ、研究者交流について意見交換を行いました。

上記以外にも長春・吉林大学、成都・西南交通大学、成都理工大学にも表敬訪問し、本学と中国の大学との学術交流促進が期待できる訪問となりました。



海外研修プログラムへの派遣

各部局及び国際センターが主催する各種プログラムに、268名の学生が参加しました。短期では、各部局プログラムにおいては特定分野の研究・医療施設等に派遣されるものもあり、専門性と実践性の高い内容となっています。また、国際センターのプログラムでは、オックスフォード大学ハートフォードカレッジをはじめとする世界のランキング上位大学で学ぶ機会を提供しています。受け身の授業ではなく、積極的に発言し、主体性を身に付ける実践的な内容となっています。

長期派遣では、交換留学・認定留学などの、単位取得を目的とする留学も提供されています。より高い語学力が求められ、卒業要件に関する科目を履修することも可能です。勉強だけでなく、海外で生活することにより、語学能力とともに適応能力も鍛えられ、国際感覚豊かな人間に成長することを目標としています。



第1回 三大学留学生日本語スピーチコンテストを実施

平成29年11月19日、関西大学梅田キャンパスにて本学、関西大学、大阪府立大学との三大学包括連携協議会主催による『第1回 三大学留学生日本語スピーチコンテスト』を開催しました。「他文化との交流体験」をテーマに三大学で学ぶ留学生が3名ずつ5分間のスピーチを競い合うもので、企画や司会進行なども学生が主体となって行いました。



本学から参加した商学部3回生（インドネシア出身）は銀賞を、文学部交換留学生（中国出身）は銅賞を、文学部交換留学生（ドイツ出身）は平和賞をそれぞれ受賞しました。

プログラム終了後には懇親会も開催され、三大学の留学生が親睦を深め合いました。

ー教育分野での取組みー

大阪市立大学オリジナル「市大ストレッチ」を開発

都市・健康スポーツ研究センターの教員と共同で、主に学生・教職員の健康増進を目的としたオリジナルストレッチ「市大ストレッチ」を開発しました。

「市大ストレッチ」とは、授業後や会議後に気軽に実施できるよう、イスに座ったまま体をほぐすことができるように考えられたストレッチです。本学都市・健康スポーツ研究センターの地域・産学連携委員の教員が、授業中における学生の姿勢の悪さを危惧したことから着想を得て考案しました。プログラムは筋硬度計で筋緊張の改善効果を確認の上で作成されています。授業終了後にレクチャー動画を再生し、その場にいる全員で実施することで、肩凝り・眼精疲労といった疲労の回復や作業効率の改善に役立つだけでなく、参加者の一体感を生むことが期待されます。

また、本学学生・教職員など総勢約200名が出演するレクチャー動画（2分43秒）を制作し、YouTube公式チャンネルにて公開しています。



「エッセヤー活動」支援事業創設



学生の社会貢献活動や社会的課題解決の取り組みを促進することにより、学生の実践力・自立心を高めるとともに、個性豊かな社会人材の育成を図るため、大阪市立大学教育後援会と共催で、学生の活動を支援する奨励金制度として、「エッセヤー活動」支援事業を創設しました。「エッセヤー」とは、tryを意味するフランス語のE s s a y e rと大阪らしい掛け声を合わせたもので、初回となる今年度は、2018年3月5日（月）ツクルマにおいて、「エッセヤー活動支援事業報告会」が開催されました。

商学部生が防災袋を開発

商学部 田村ゼミナール（科目名：専門ゼミナール3、担当：商学部 田村 晃二 准教授）3年生11名が、大阪・中崎町のかばんブランド

「Ichimaruni」と共同で防災袋「AIR POST」を開発しました。

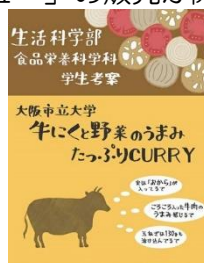
本商品は、ゼミ生の「本学も被害想定地域に含まれる南海トラフ地震から学生を守るために、自分たちのマーケティングの学習をどうにかして活かそう」という思いから“おしゃれで、コンパクトで、手放せない防災袋”をコンセプトに開発されました。



「学生考案カレー」と「学長ビーフシチュー」を販売開始

平成29年11月6日より、生活科学部食品栄養科学科 学生考案「牛にくと野菜のうまみたっぷりCURRY」と「大阪市立大学 学長ビーフシチュー」の販売が開始されました。

「牛にくと野菜のうまみたっぷりCURRY」は、大学院生活科学研究科、生活科学部 食品栄養科学科の学生有志13名が集まり、約5ヶ月の開発期間を経て完成したオリジナルカレーで、「ビーフシチュー」は、荒川哲男学長のオリジナルレシピで、イベントなどで学生や教職員に振る舞われてきましたが、多くの反響があり、商品化したものです。



ー研究分野での取組みー

大阪市における生活保護データの分析結果を発表

大阪市立大学公共データ解析プロジェクトチームは、このたび、大阪市が保有する行政データを活用したビッグデータ分析における国内初の事例として、生活保護を対象としたデータ分析の結果を取りまとめ、公表しました。

この調査は、本学が平成28年6月に大阪市と締結した「大阪市の地域福祉等の向上のための有効性実証検証に関する連携協定」に基づき実施されたものです。大阪市では、最先端ICT都市の実現に向け「大阪市ICT戦略」を策定し、そのなかで「積極的なデータ活用促進」として、データ分析に基づく効果的な施策の実施に向けた取り組み（ビッグデータ活用）を進めています。これは、市が保有する行政データを活用して分析した国内初の事例となる試みです。



障害物を避けながら長時間飛行できる ケーブル給電マルチコプターを開発

工学研究科機械物理系専攻 今津篤志（いまづ あつし）講師らのグループは、複数のマルチコプターを直列につなげることで、ケーブルを障害物に引っかけることなく長時間飛行できるケーブル給電手法を開発しました。地上から有線で電源供給を行うケーブル給電マルチコプターは、長時間飛行を行うことができますが、一方でケーブルが柵や建築物に引っかかってしまうという課題がありました。そこで中継マルチコプターを用いることでケーブルの障害物への接触を防ぐため、中継マルチコプターの位置を自動的に計画する手法を開発しました。本研究により、障害物への接触を懸念することなく、長時間マルチコプターを飛行させることが可能となりました。

胃癌の腹膜転移予測に有用な術中診断法を開発

医学研究科 癌分子病態制御学・腫瘍外科学・難治がんTRセンター副センター長 八代正和（やしろう まさかず）准教授、三木 友一朗（みき ゆういちろう）博士課程大学院生・医師、腫瘍外科学の大平 雅一（おおひら まさいち）教授および診断病理学の大澤 政彦（おおさわ

まさひこ）教授らのグループは、胃がん患者に高頻度で再発する腹膜転移を対象とする術中診断法を開発しました。この手法は、がんの切除手術中に腹膜転移の可能性が高いかどうかを病理診断することで、結果が陽性的場合には当該手術中に抗がん剤を投与したり、腹腔内大量洗浄を行うなどの術中再発防止策をとることを可能とするものです。これにより、腹膜へのがんの再発について高い予防効果が期待できます。



尿酸値が正常範囲内であっても 腎臓に悪影響の可能性!?

医学研究科 代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学 上殿 英記（うえどの ひでき）大学院生、津田 昌宏（つだ あきひろ）講師、石村 栄治（いしむら えいじ）特任教授らのグループは、ヒトの腎臓の機能と血流量を正確に測定する方法と微細血管抵抗計算式を用いて、尿酸と腎臓の微細動脈血管抵抗値との関連について研究しました。その結果、血清尿酸値が正常範囲内であっても、軽度の高値あるいは低値の状態、腎臓の輸入細動脈血管抵抗値の上昇がみられること、また、腎臓への血流や機能が低下することを世界で初めて明らかにしました。

ー地域貢献分野での取組みー

Jリーグ セレッソ大阪とフレンドシップ協定を締結

平成29年8月26日(土)、大阪市立大学は一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブおよび大阪サッカークラブ株式会社とフレンドシップ協定を締結しました。本学は、セレッソ大阪の前身であるヤンマーディーゼルサッカー部時代から約30年間にわたりチームドクターを務めています。現在も本学医学研究科整形外科所属の20名がチームドクターであり、Jリーグの全試合へ同行するなど、ユースの選手も含めたセレッソ大阪グループのサポートを行っています。

今回のフレンドシップ協定の締結により、選手やアカデミー部門のデータ分析に基づいた年代別のトレーニング方法の開発や障害予防などの健康・スポーツ医科学研究の振興や、セレッソ大阪の応援を通じた地域スポーツクラブの発展、またスポーツを支える人材育成などに取り組みます。本学は今後もセレッソ大阪に一番近いサポーター大学として、全学をあげてセレッソ大阪を応援してまいります。



万博誘致イベント

「2025年大阪・関西万博誘致盛り上げ隊集合！」を開催

平成29年11月5日(日)、杉本キャンパス「第67回銀杏祭」会場において、万博誘致イベント「2025年大阪・関西万博誘致盛り上げ隊集合！」を開催しました。



2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致実現には、国内で機運を高めていくことが重要な要素となります。特に、開催地となる大阪市ではよりいっそうの盛り上がりが求められており、本学は若者からの盛り上げを期待し、大阪市や大阪府立大学にも協力いただきながら本イベントを実施しました。

イベントでは、本学及び大阪府立大学の両応援団による熱い演舞や吉村大阪市長からの万博誘致に向けた来場者への熱いメッセージをいただき大変盛り上がりました

町工場を舞台としたオリジナル演劇「継ぐまちファクトリー」を上演

商学部は、平成30年4月の「公共経営学科」新設を記念して、平成29年8月25日(金)～27日(日)に杉本キャンパス田中記念館において、町工場を舞台とした大学オリジナル演劇「継ぐまちファクトリー」を上演しました。本劇は、商学部 本多哲夫教授(地域経営論・中小企業論)が自らの講義や研究をもとに執筆したオリジナル脚本を、本学の学生劇団「劇団カオス」が演じました。

町工場の後継者問題、脱下請への取り組み、地域社会との関わりを描いたドラマ。笑って泣けるハートフル・コメディ。大学発の「教育・研究」と「演劇」のコラボ企画で、楽しみながら中小企業や地域について考えるというエデュテイメント(エデュケーションとエンターテインメントの融合)のイベントとして行われました。



—医療分野での取組み—

日本適合性認定協会

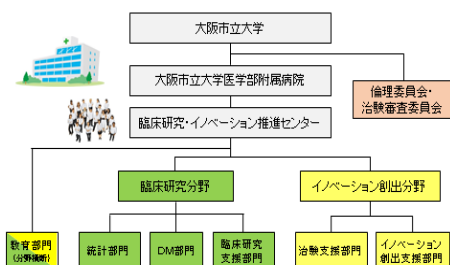
臨床検査室認定（ISO15189）を取得

中央臨床検査部・輸血部・病理部・感染制御部の臨床検査室は、平成29年8月17日にISO15189の認定施設として登録されました。臨床検査の品質と能力を保証する国際規格であり、検査精度の高い正確な結果を提供する能力を有する施設が認定されます。認定施設の検査結果は国際的に認められた仕組みに基づき運営され、検査結果に対する信頼性が向上します。臨床検査室は、これからも基本方針である「診療、教育、研究を遂行し、迅速かつ正確な検査成績を提供する」をもとにISO15189の要求事項を遵守し、安心して良質な検査を受けて頂けるよう患者さまへのサービス向上に努めてまいります。



臨床研究・イノベーション推進センターの開設

臨床研究・イノベーション推進センター
Center for Clinical Research and Innovation (CCRI)



質の高い多彩な治験・臨床研究推進の支援、産学連携の推進による医療イノベーション創出、適正な治験・臨床研究実施体制の整備、優れた人材の育成を通じて、医療の進歩に貢献することを理念として掲げ、平成29年8月1日医学部附属病院に臨床研究・イノベーション推進センターを開設しました。本センターは、臨床研究分野、イノベーション創出分野、及び教育部門（分野横断）の2分野1部門が連携して、本学における治験・臨床研究の活性化と、本学の研究成果等をシーズとした画期的・革新的な新医薬品・医療機器等の開発・早期実用化を目指しています。

入退院支援センターの開設

平成29年4月より入院患者さまが入院される前から不安を取り除き、安心して医療を受けることを目的に入院オリエンテーションを行っています。治療内容や療養内容、薬の服薬指導、医療費控除等を看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、事務職員から説明させていただいております。入院から退院まで一貫した支援を提供するよう努めております。



大阪市立大学夢基金

大阪市立大学は、広く学内外の皆様からのご支援を仰ぎ、「大阪市立大学夢基金」を設立し、より高度な教育・研究の推進等をすすめています。

皆様よりいただいた寄附金の一部は「積立金」として運用し、一部は「事業資金」として単独または本学の他の資金と併せて下記事業に活用させていただきます。

■「大学の発展」のために

大学の基盤となる教育・研究に係る整備、充実のための事業費
(大学の基盤事業充実費)

■「課外活動支援」の充実のために

- ・「課外活動施設」の充実のために 学生生活における課外活動を充実させるために、体育会系及び文化系クラブの部室やミーティングルームなどの施設整備のための事業費
- ・「課外活動団体」の発展のために 特定の課外活動団体を支援するための事業費

■「全天候型グラウンド」の整備のために

スポーツ環境の充実のために、関西の公立大学初の全天候型グラウンドの整備を目指すための事業費

■「グローバル人材の育成」のために

国際社会で活躍する人材を養成するために、学生の海外留学・渡航支援や海外からの留学生との交流等のための事業費

■「社会連携」のために

社会との緻密なネットワークづくりのために、市民や学生が参加できる講演会などのイベントや、学生が地域と連携したボランティア活動等を行うための事業費

■「医療・保健推進」のために

医学の発展・医療環境の整備および保健事業の充実のための事業費

大阪市「ふるさと寄附金」

大阪市では、大阪市立大学の教育・研究環境の充実に活用する「ふるさと寄附金」を募集しています。大阪市に納めていただいた寄附金は、大阪市立大学のグローバル人材の育成事業及び学生ホールの整備に役立てられます。

「大阪市立大学夢基金海外留学奨学金」を活用した異文化交流

大阪市立大学夢基金により、意欲・目的をもって海外留学・渡航する学生を支援し、将来、グローバル社会で活躍する人材の育成を目的に、毎年2回に分けて募集し、海外に派遣しています。

★留学した学生の声★

- ドイツでの半年間は、とても新鮮なもので、寮では様々な国の学生と話すことができ、とても充実した時を過ごすことができました。
- ベトナムの大学での現地企業の業務改善プロジェクトに係わり、自らの意見を英語で伝える難しさなどを実感しましたが、プレゼンが成功したときには、そうした言葉の壁を越えた達成感を味わいました。



お問い合わせ先

大学サポーター交流室
(大阪市立大学夢基金)

T E L 06-6605-3415

E-mail: yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp

<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund>

